

2019年3月期 決算説明資料

2019年5月14日

田淵電機株式会社（証券コード：6624）

2019年3月期 業績の概要

- （電源機器・エネルギーソリューション事業）
パワコンは国内住宅用蓄電ハイブリッドシステムが伸長し底打ち
- （電源機器・電源デバイス事業）
アミューズメント用ADPは、単価下落・競争激化に伴い、前年同期比では大きく減少
- （変成器・電源デバイス事業）
4Qより、ドイツ・国内子会社2社を売却した影響はあったが、その他でカバー エアコン用リアクタおよびSW電源用高周波トランスは、上期好調にも係らず下期は中国の縮小で通期は横ばい
- 事業再生ADR手続き完了に伴い、設備資産の一括償却、固定費・人件費の削減もあり、損益は大幅改善

10%の減収も、固定費削減の効果もあり赤字大幅縮小 事業再生ADR手続き完了に伴い、損益は大幅改善

単位：百万円

	2018年3月期	2019年3月期	増減
売上高	26,417	23,606	▲2,811
営業利益	▲4,361	▲1,611	+2,749
経常利益	▲4,432	▲1,465	+2,966
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲8,830	▲177	+8,652

連結セグメント別業績概要

単位：百万円

	2018年3月期		2019年3月期		前年度比増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
インバータ (パワーコンディショナ)	10,690		10,870		+180	
		▲4,228		▲1,820		+2,407
電源ユニット	5,984		3,073		▲2,910	
変成器	9,743	24	9,661	346	▲81	+322
調整額	-	▲157	-	▲137	-	+19
連結計	26,417	▲4,361	23,606	▲1,611	▲2,811	+2,749

*セグメント利益については インバータと電源ユニットを電源機器として開示

電源機器事業

前年度比 ▲16.4%

- パワコンは国内市場が下げ止まりつつあり、当社も住宅用蓄電システムが伸長し、前同比+1.7%と持ち直し
- アミューズメント機器向けADPは前年同期比48%減少

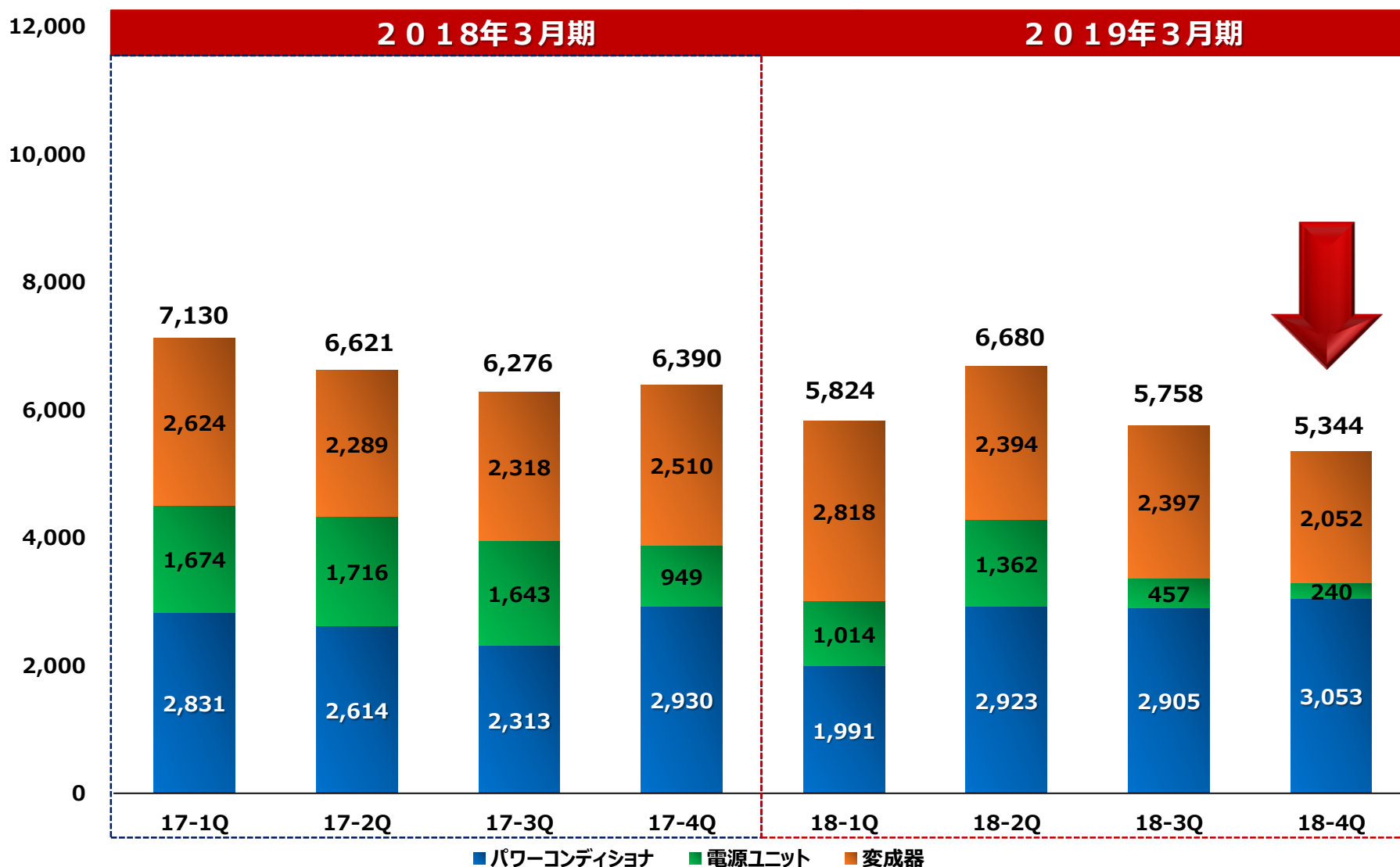
変成器事業

前年度比 ▲0.8%

- ドイツ・国内の子会社2社の売却の影響はあったが、リアクタやSWトランス既存製品でカバーし、売上高は微減に終わる。

連結セグメント別売上高四半期推移

単位：百万円

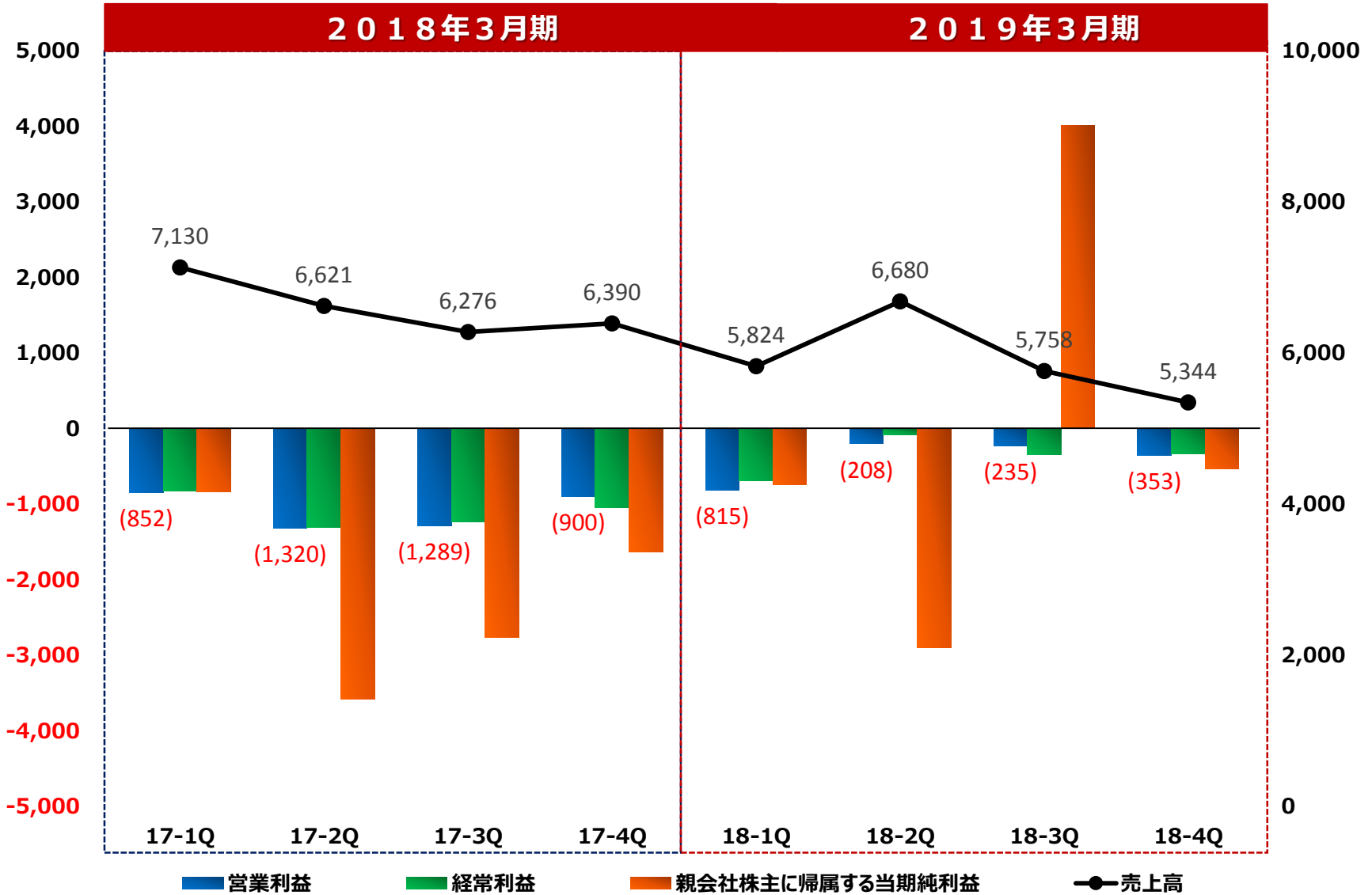


連結業績四半期推移

単位：百万円

営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益（棒グラフ）

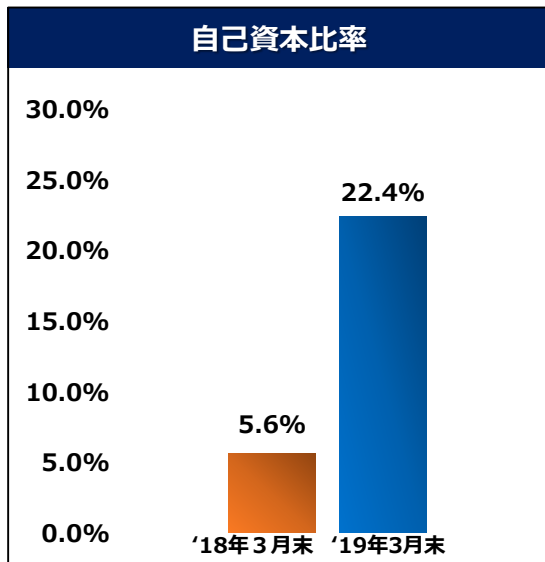
売上高（折線グラフ）



連結貸借対照表概要

単位：百万円

	2018年3月末	2019年3月末		2018年3月末	2019年3月末
現預金	2,623	4,573	仕入債務	3,735	2,862
売上債権	4,496	3,678	短期有利子負債	8,943	815
棚卸資産	7,482	3,774	その他（流動）	2,337	2,388
その他（流動）	996	863	長期有利子負債	1,791	4,049
固定資産合計	7,096	5,550	その他（固定）	4,613	4,198
繰延資産	0	—	純資産	1,277	4,127
資産計	22,695	18,440	負債・純資産計	22,695	18,440



連結キャッシュ・フロー計算書概要

単位：百万円

	2018年 3月期	2019年 3月期	増減
営業活動によるCF	▲1,753	25	+1,778
投資活動によるCF	▲1,260	▲65	+1,195
フリー・キャッシュ・フロー	▲3,014	▲40	+2,974
財務活動によるCF	1,321	2,110	+789
現預金に係る換算差額	▲48	24	+72
現預金増減額	▲1,741	2,094	+3,835
現預金期首残高	4,365	2,623	▲1,742
連結除外に伴う現金 及び現金同等物の減少額	-	▲145	▲145
現預金期末残高	2,623	4,573	+1,950

単位：百万円

	2019年 3月期	2020年3月期 (中間)	2020年3月期	増減 (通期)
売上高	23,606	9,500	20,500	▲3,106
営業利益	▲1,611	30	180	+1,791
営業利益率	—	0.3%	0.9%	
経常利益	▲1,465	0	100	+1,565
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲177	▲350	▲300	▲123
配当	年間計 0円	中間 0円	通期 0円	

注) 予想の前提となる為替レートは1ドル105円

今期業績の予想

- 売上高、営業利益
 - ドイツ・国内子会社2社の売却による減収が見込まれるものの、トランス事業は引き続き堅調に推移の見通し
 - パワーコンディショナの国内市場では、下期以降に余剰買取期間（10年）終了の既設分の買い替え需要が始まり、注目が集まる蓄電を付加したシステム提案を推進
 - アミューズメント用電源は引き続き低調に推移の見込
 - 固定費削減による損益分岐点売上が減少し大幅な減収でも黒字を確保

TABUCHI ELECTRIC

当資料に記載されている当社又はグループに関する見通し、方針、戦略等は、現時点での入手可能な情報に基づき、合理的と判断した前提のもと予測したものです。実際の業績は今後起こりうる様々な要因によって異なることがあることをご理解ください。